

## はしがき

科学技術の進歩にともなう社会の発達はまことに目覚ましく、我々は、ともすれば「民族の心」を忘れ、「心につながり、血につながるふるさとの歴史」をたずねるという温故知新の重要性をさえ忘れがちである。

本県では、「豊かなところとくにづくり」を目指し、県民の盛りあがる力により調和のとれた発展を遂げております。県立図書館としても、郷土資料、特に郷土史料の重要性にかんがみ、その収集・整理と活用に努力してきた。

この「久門家文書」ならびに「松本家文書」は、西条市の名家久門範政氏および松本知臣氏が郷土史料の重要性、公共性の主旨に賛同され、両家秘蔵の江戸時代以来の庄屋文書を、本館に寄託されることになったものである。両氏のご厚意に敬意を表し、感謝申しあげる次第であります。

本館では、一万点を超える貴重な史料につき鋭意調査、整理をすすめ、ここに「郷土諸家目録」を作成する運びとなった。ふるさとの歴史を愛し、研究を志す各位の活用を期待するものである。

この文書の調査、整理にあたっては、さきの「伊予国石高調帳」などに引きつづき、戒田栄氏に全般にわたりご尽力願った。ここに、こころから謝意を表します。

昭和 51 年 10 月 1 日

愛媛県立図書館長 井原 康男